

複合問題（その他）

2問（80） サフランが多用される伝承医学はどれか、一つ選べ。

- ① アーユルヴェーダ
- ② シツダ
- ③ ジャムー
- ④ ハーブ療法
- ⑤ ユナニー

4問（2） ワシントン条約で保護されている薬用植物は何れか。

- ① *Saussurea lappa*
- ② *Rheum palmatum*
- ③ *Ephedra sinica*
- ④ *Glycyrrhiza uralensis*
- ⑤ *Crocus sativus*

2問（35） 現在、国内で使用される生薬に関し、国内産生薬の占める割合(数量ベース)はどの程度か、一つ選べ。

- ① 約3%
- ② 約5%
- ③ 約12%
- ④ 約18%
- ⑤ 約30%

5問（58） 日本の市場で中国産よりも日本産が多く流通している生薬はどれか。

- ① 当帰
- ② 川芎
- ③ 人参
- ④ 芍薬
- ⑤ 黄連

1問(37) 次の薬用植物で日本でも薬用に栽培生産されているものはどれか、一つ選べ。

- ① *Cyperus rotundus*
- ② *Cnidium officinale*
- ③ *Pueraria lobata*
- ④ *Trichosanthes kirilowii*
- ⑤ *Jateorhiza columba*

2問（39） 現在の人参の3大産地はどこか。次の組み合わせから選べ

- ① 長野県・福島県・島根県

- ② 香川県・山口県・鹿児島県
- ③ 愛知県・福岡県・山口県
- ④ 茨城県・石川県・栃木県
- ⑤ 宮崎県・高知県・和歌山県

4問 (45) 寒天の日本における主産地は何処か。

- ① 青森県
- ② 長野県
- ③ 山口県
- ④ 鹿児島県
- ⑤ 沖縄県

4問 (71) 山薬や牛膝の良質品を産出する地方は何処か。

- ① 東北各省。
- ② 広東・広西省
- ③ 河南省
- ④ 四川省
- ⑤ 福建省

5問 (41) 次のうち四川省で生産される生薬はどれか。

- ① 升麻
- ② 人参
- ③ 細辛
- ④ 沢瀉
- ⑤ 防風

2問 (41) 生薬と主たる産地の組み合わせで正しくないものはどれか、一つ選べ。

- ① 人参 / 吉林省
- ② 黄連 / 四川省
- ③ 芍薬 / 安徽省
- ④ 細辛 / 遼寧省
- ⑤ 陳皮 / 河北省

3問 (31) 桜皮に関する記載で正しいものを一つ選べ。

- ① 中国からの輸入品も使用される。
- ② ヤマザクラとソメイヨシノが原植物として利用できる。
- ③ 日本の民間薬から開発された。
- ④ 桜皮の原植物とサクラは関係ない。
- ⑤ 漢方処方には配合されない。

1問(29) 共通点のある4種類の生薬を並べた。誤った組み合わせはどれか。一つ選べ。

- ① 瀉下薬とする生薬（大黄—センナ—決明子—アロエ）
- ② 修治することがある生薬（黄耆—人參—甘草—地黄）
- ③ 木本植物に由来する生薬（桜皮—牡丹皮—アカメガシワ—黄柏）
- ④ ナス科植物に由来する生薬（ペラドンナ根—ロート根—冬瓜子—地骨皮）
- ⑤ イリドイド化合物を含有する生薬（地黄—杜仲—肉蓯蓉—キササゲ）

1問(30) 次の生薬のうち、日本において保険診療で使用できない生薬はどれか。一つ選べ。

- ① サフラン
- ② 附子
- ③ 竹節人參
- ④ 天麻
- ⑤ 牛黄

1問(31) 太陽病に用いる漢方方剤には麻黄と桂皮が含まれている。これらの生薬のインフルエンザウイルス増殖抑制効果として解明されている機序について述べた。

()に入る言葉の組み合わせで、正しいのはどれか。

「麻黄の(1)、桂皮に含まれる精油成分の cinnamaldehyde による(2)、麻黄湯による(3)、これらによるインフルエンザウイルス増殖抑制効果が示唆されている。」

- ① (1) ウイルス RNA 合成阻害、(2) ウイルス蛋白合成阻害、(3) ウイルス脱殻阻止
- ② (1) ウイルス脱殻阻止、(2) ウイルス蛋白合成阻害、(3) オートファジーの成熟の正常化
- ③ (1) ウイルス脱殻阻止、(2) オートファジーの成熟の正常化、(3) ウイルス RNA 合成阻害
- ④ (1) ノイラミニダーゼ阻害、(2) オートファジーの成熟の正常化、(3) ノイラミニダーゼ阻害
- ⑤ (1) ウイルス蛋白合成阻害、(2) ノイラミニダーゼ阻害、(3) オートファジーの成熟の正常化

2問(49) 杏仁と桃仁に関する記載で、誤っているものはどれか、一つ選べ。

- ① 杏仁はアンズ、桃仁はモモの種子を基原とする。
- ② 形状は比較的類似であるが、桃仁の方が杏仁よりやや細長く、種皮の石細胞の形状でも区別できる。
- ③ 杏仁、桃仁とも青酸配糖体であるアミグダリンを含有する。
- ④ アミグダリン含量は一般的に桃仁より杏仁が高含量である。
- ⑤ 杏仁と桃仁はいずれも神農本草経下品に収載され、漢方では概ね同様の目的で配合される。

2問 (51) 人参と竹節人参に関する記載で、誤っているものはどれか、一つ選べ。

- ① 人参と竹節人参はいずれもウコギ科植物に由来する。
- ② いずれもステロイド或いはトリテルペノイド系のサポニンを含有する。
- ③ いずれも日本では野生品は見られない。
- ④ 人参は根、竹節人参は根茎を加工したもの。
- ⑤ 人参は生干しだけでなく、蒸すなどして加工する場合があるが、竹節人参は一般に生干しである。

2問 (71) 以下に示す生薬の中で、食品として加工できないものはどれか、一つ選べ。

- ① ウコン
- ② ヨクイニン
- ③ オウセイ
- ④ マシニン
- ⑤ コウジン

3問 (70) 人が経口的に服用するものが、医薬品医療機器等法に規定する医薬品に該当するか否かは、「無承認無許可医薬品の指導取締りについて」（昭和46年6月1日付け薬発第476号厚生省薬務局長通知）の別紙「医薬品の範囲に関する基準」により判断されるが、通例これを何というか。

- ① 所謂「薬食判断基準」
- ② 所謂「無許可無承認ガイドライン」
- ③ 所謂「二課長通知」
- ④ 所謂「指導指針」
- ⑤ 所謂「**食薬区分**」

3問 (65) 次の薬用植物に由来する生薬で、食用に利用されないものはどれか。一つ選べ。

- ① **Phellodendron amurense**
- ② Dioscorea batatas
- ③ Oryza sativa
- ④ Lycium chinensis
- ⑤ Panax ginseng

5問 (50) 「食薬区分」の説明として誤っているものを次の中から選べ。

- ① 厚生労働省では、製品の原材料となるものについて、医薬品としての使用実態、毒性、麻薬様作用等を考慮し、「医薬品に該当するか否か」の判断を示している。
- ② 医薬品に該当する成分本質（原材料）については、「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）リスト」（以下医薬品リスト）に、医薬品に該当しない成分本質（原材料）については、参考として「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断

しない成分本質(原材料)リスト」(以下非医薬品リスト)にその例示が掲げられている。

- ③ 医薬品リストに掲載されている成分本質(原材料)は、いわゆる健康食品に使用することはできなく、医薬部外品や化粧品にも使用することはできない。
- ④ 非医薬品リストに掲載されている成分本質(原材料)でも、日本で食品添加物として認められていない等の理由で食品に使用できないものや食品添加物の基準に従って使用しなければならないものがあり、食品への使用に際しては、保健所等で食品衛生法の担当に確認が望ましい。
- ⑤ どちらのリストにも掲載されていない成分本質(原材料)は「医薬品に該当するかどうか」の判断が示されていないもので、掲載されていないからといって医薬品成分ではないとは言えない。

3問(48) 灰分に関する記載で、正しいものはどれか、一つ選べ。

- ① 日本薬局方では灰分量の上限と下限を規定している。
- ② 日本薬局方で規定する灰分量は酸不溶性灰分のみである。
- ③ 酸不溶性灰分には重金属を含む。
- ④ 酸不溶性灰分として計測されるのは地球上で量的に最も多い元素である。
- ⑤ 灰分にはカリウムなど薬効成分として重要な元素が含まれるため、日本薬局方で量的規制を行っている。

4問(3) 次の生薬の中で、秦の始皇帝の命により渡航した徐福が日本にもたらしたとされる生薬は何れか。

- ① ケイヒ
- ② ウヤク
- ③ サンキライ
- ④ ボクソク
- ⑤ オウバク

4問(70) 副腎皮質ホルモンの合成原料となりうる成分が含まれる生薬が配合される漢方処方は何れか。

- ① 葛根湯
- ② 真武湯
- ③ 大柴胡湯
- ④ 小柴胡湯
- ⑤ 牛車腎気丸

4問(27) 共通点のある4種類の生薬を並べた。誤った組み合わせは何れか。

- ① 瀉下薬とする生薬(大黄—センナ—決明子—アロエ)
- ② 修治することがある生薬(黄耆—人參—甘草—地黄)
- ③ 木本植物に由来する生薬(桜皮—牡丹皮—アカメガシワ—黄柏)
- ④ Iridoid 化合物を含有する生薬(地黄—杜仲—肉蓯蓉—キササゲ)

⑤ ナス科植物に由来する生薬（ベラドンナーロート根ートウガシー地骨皮）

5問（2） 黄連について、正しい記載はどれか。

- ① 黄連末を検鏡する時、コルク組織を認めない。
- ② 水抽出液の少量に塩酸と過酸化水素試液を加えると橙色になる。
- ③ 強い苦味があるが、残留性ではない。
- ④ 日局収載の原植物の中で、日本産は2種のみである。
- ⑤ 黄連、黄連末ともに日局ではベルベリンを4.2%以上含むと規定している。

5問（46） 昨今、国内での薬用植物栽培への期待が高まっているが、その背景・事情の説明として間違っているものはどれか。

- ① 主供給国である中国の状況（天変地異、価格、制度など）に対する安定確保へのリスク回避策が求められているため。
- ② 耕作放棄地などの代替作物の一つとして活用が期待されているため。
- ③ 薬用作物は栽培が容易で野菜に比べ高値取引されるため、生産者の収入は安定しやすい。
- ④ 薬用作物専用の農業機械が無いため、薬用作物に適した農業機械の開発が望まれている。
- ⑤ 野菜と比較すると、複数年の栽培期間がかかるものもあり、また使用できる農薬種は少なく収穫後の乾燥などの設備も必要など負担がかかる場合がある。

5問（51） 中国の生薬供給・流通状況について適当なものを次の中から選べ。

- ① 中国の著しい経済発展に伴い生薬の産地も影響を受けているが、中国は国土が広いため野生品の枯渇や沿岸部や都市部に近い地域での栽培地の減少は懸念されていない。
- ② 中国では中薬材保護発展計画 2015-2020 を策定し、枯渇資源の保護、栽培基地化、規格の厳格化および流通改善などに取り組んでいる。
- ③ 中国は共産国のため自由経済は限定的であり、外国からの生薬入手は広州交易会などの限られた見本市でしか行えない。
- ④ 中国では煎じるために加工した生薬を「飲片」と称するが、伝統的に古くから扱われているので一般雑貨品と同様に取り扱うための許認可は必要ない。
- ⑤ 中国では加工賃が安いいため生薬の生産が行われるが、殆どは輸出用であり国内の消費は少ない。

